

デスクトップ型RPAツールの比較検証とRPA開発・管理ガイドラインの策定

要 旨

RPA(Robotic Process Automation)とは、人が行うパソコン操作をソフトウェアで自動化する技術で、定型業務の大量事務処理等で実績を挙げている。今日では、AI技術やOCRツール等と組み合わせ、更に多くの業務へ活用されている。RPAプログラムには、パソコンでデスクトップ上のユーザー操作を代行して実行する“デスクトップ型”と、サーバ上で大量データや繰り返し処理を実行する“サーバ型”の2種類がある。デスクトップ型はユーザーの利便性重視でスモールスタートに向いており、サーバ型は管理統制重視で専門部署による一元集中管理がしやすい特長がある。

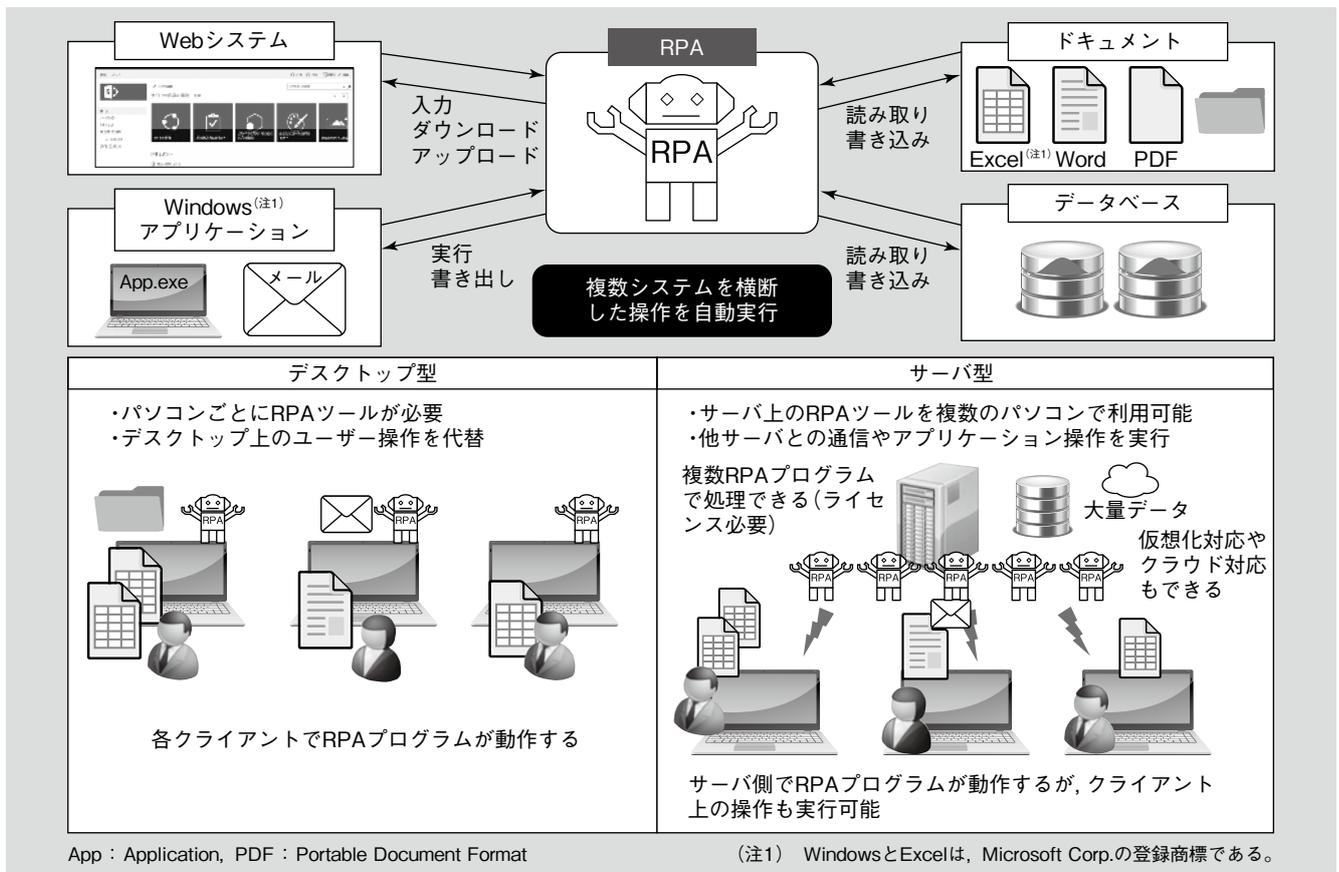
RPAを導入するときは、次のような手順で行う。

- (1) 業務プロセスの棚卸し
- (2) RPA化業務の選定

- (3) RPAツール選定
- (4) トライアル導入
- (5) 社内展開

社内展開する際には、RPA実装工程の要件定義や、セキュリティ対策等のガイドラインの設定といったガバナンス整備が必要になる。併せて、推進体制の構築、ノウハウ収集やRPA担当者育成等の技術力強化にも取り組まなければならない。

e-ソリューション&サービス事業部(以下“e-SS事業部”)では、2018年からRPAによる業務改善に取り組んでいる。その取組みの一環として、デスクトップ型RPAツールの比較検証とRPA開発・管理ガイドラインの策定を実施した。



RPAのイメージ

RPAの利用イメージとデスクトップ型/サーバ型の比較イメージを示す。